

労災ケア通信

第93号

2025年11月25日

発行：一般財団法人
労災サポートセンター

〒102-0073

東京都千代田区九段北4-1-3
飛栄九段北ビル10F

TEL 03-6834-2510(代表)

FAX 03-6834-2530

ホームページアドレス

<https://www.rousaisc.or.jp>

ケアプラザだより

ケアプラザ岩見沢

「とびっきりの笑顔咲く納涼祭!!」

介護課行事委員

8月6日(水)、納涼祭を開催しました。

今年の内容は、昨年好評だったボランティア「ななかまど」さん達による演芸と歌謡ショーのほか、北海道教育大学の学生音楽団体「モイム」さんによる歌とピアノ演奏と盛りだくさんで、入居者の方々と共に楽しい時間を過ごしました。

歌謡ショーでは入居者2名も参加され、サングラスにジャケット着用と普段とは違った一面を見せてくださいました。

今回は歌が中心の納涼祭だったため、知っている曲があれば手拍子をしながらか一緒に歌い、「アンコール！」



華やかなステージ衣装で熱唱される入居者の方々

アンコール！」と大きな声をだして、とびっきりの笑顔で楽しむ姿が印象的でした。

また行事の合間には夏の風物詩といえるアイスを食べて、ひんやりと涼むこともでき、最高の納涼祭だったと思います。来年も皆様に喜んで頂けるような行事にしていきたいです。

「北海道も暑かった」アリオ札幌へバス旅行

介護課行事委員

北海道でも真夏日が続いた今年の夏、7月と9月に「サッポロビール園アリオ札幌」へのバス旅行を2回実施しました。

7月の旅行当日は気温30℃、9月当日は北海道の9月とは思えない28℃と、両日とも天気に恵まれ最高のドライブ日和となりました。

入居者の方々は現地でジンギスカン等、それぞれ好きな食事を召し上がり、たくさんのお店に立ち寄って買い物を楽しまれるなど、充実した時間をすごされた様子でした。

今後も入居者の方々が楽しむこと



好きな食事を楽しめる入居者の方

のできる行事を企画し、実施していきたいと思います。

ケアプラザ富谷

「ヨーヨーすくい、射的楽しかった縁日」

介護課 山本 蒼央

7月31日(木)は納涼祭で正面玄関前ホールから多目的ホールまでのスペースを使い、縁日が開催されました。色とりどりの水ヨーヨーが浮かぶプールの周りで参加者は「どれにしようかな」と迷いながら水ヨーヨーすくいを楽しんでいました。かき氷コーナーでは本格的なかき氷機



水ヨーヨーすくいに挑戦「どれにしようかな」



プログラム(ボランティアさん作成十五夜カード添付)

で氷を削り、いちごや抹茶など好みのシロップをかけて皆で美味しくいただきました。

射的コーナーは毎年人気ですが、狙いの景品を射止めると拍手が沸き起こり、会場は和やかな雰囲気になりました。夏らしい催しに入居者の方々から「かき氷美味しかったよ」、「縁日が楽しかった」といった声がたくさん聞かれ、笑顔溢れるひとときとなりました。

「大正夢の音楽会」

総務課

9月3日(水) ケアプラザ富谷で近隣の演奏ボランティア「ハッピースマイル娘」による大正夢の音楽会が開催されました。まず、ボランティア

イアさんによる大正夢の紹介がありました。

この楽器は、演奏方法が難しくメロディーを左手で押さえ右手で弦をはじめて音を奏でること、楽譜は音符ではなく数字表記であること、そのため頭をフル回転させて演奏していること、最近では若い音楽バンドの方も弾いていて馴染みがあることなど興味深いお話がありました。

次は、いよいよ演奏スタートです。秋の童謡や懐かしい歌謡曲が演奏されると自然に入居者の方々からも声が発せられたり、手遊び曲では一緒に体を動かしたりと、楽しいひとときを過ごしました。

入居者の方々からは、「俺も昔弾いていたんだ」「大正夢の生演奏、良かったよ」「司会の方のトークに引き込まれた」など感想がありました。最後は、琴といえばおなじみの曲「さくらさくら」の演奏で締めくくり、皆さんで記念撮影をして終了となりました。

ケアプラザ四街道

「ケアプラザに入居して」

関 正紀

私は平成3年10月に勤務先からの



お部屋で談笑する関さんと総務課長

帰宅途中に交通事故で怪我をしました。

病院からの退院後は家族による介護を受けてきましたが、在宅での生活が困難になってきたので「いつかはケアプラザへ」と思っていたこともあり、様々な悩みもあったものの入居申請をしました。

住み慣れた杉並の街を離れて、四街道に来ることにはかなり抵抗がありました。職員の方々の説明を聞いているうちに少しずつ不安が拭い去られ、「ケアプラザに行ってみよう!」と決心しました。

7月の終わりに入居して、間もなく2か月になりますが施設生活は快適そのもの。

窓から見える自然豊かな風景や、ゆったりと入れる大きな風呂などストレスを感じないくらい快適に過ごしています。

今後は涼しくなった秋の空の下、施設を囲む遊歩道でリハビリを兼ねた散歩を楽しみたいと思っています。

「買い物ツアーに参加して」

堺谷総務課長

今年7月に北海道施設から千葉施設に転勤してまいりました。

実は千葉施設には18年ほど前に勤務していたことがあり、赴任して館内を回っていると見覚えのある入居者の方々が何人もいて「おっ、帰って来たのか!」などと声を掛けられ、とても朗らかな気分でした。

今回の施設行事「買い物ツアー」で担当した入居者の方も、私が18年前に施設で介護の勉強をしていた時に食事の介助などをさせて頂いた懐かしい方。

当時は口数も少なかったのですが、いまではとても饒舌になっていらっしやう、お酒なんて飲まない方はすなのに、スーパーの店内で「エビスビールはどうか?」と。私が「えっ? エビスビール?」と驚いて顔を覗き込むと、ニヤツとされます。

なんだか、とっても楽しい施設生

活になりそうな予感のした日となりました。

ケアプラザ瀬戸

「近隣地域の市長が施設見学に来訪」

総務課

ケアプラザの所在地である瀬戸市の市長と旭労災病院のある尾張旭市長、そしてお隣の長久手市長の3市長から、労災重度被災者のために厚生労働省が設置した当施設について見識を深めたいとの申し出があり、7月9日（水）に施設を見学していただきました。

見学当日は猛暑となりましたが、



施設のミニチュアを使用し3市長へ説明する様子

3人の市長は施設の内外を熱心に見学され、労災特有の介護の必要性などについて理解を深めていただきました。

施設としてもケアプラザの有用性をPRする良い機会となりました。

入居者の方々が快適に過ごせるよう、今後も近隣の市役所との緊密な連携を継続していききたいと思えます。

「感染対策研修会の実施」

総務課・介護課

7月14日（月）介護課長による『感染対策研修会』を施設内で実施しました。

今回は約20名の入居者の方々にご参加いただきました。

一昨年コロナが5類へ移行になり、世間一般では感染に対する意識がかなり薄くなりつつある状況です。

ピーク時と比較すれば重篤な症状の報告もあまり聞かれなくなりましたが、入居者の方々は重度の障害を負われた方々ですので、感染防止に対する知識と意識を今一度持つていただく機会になればと、研修会を実施しました。

参加いただいた入居者の方々は手元の資料を見ながら、介護課長の話を熱心に聞いていらつしやいました。今後も安心して生活いただける様、



熱心に介護課長の話を聞く入居者の方々

職員一同、入居者の方々と共に頑張って行きたいと思えます。

ケアプラザ堺

「エネルギーッシュに！よさこい踊り」

介護課

8月13日（水）5年ぶりとなる納涼祭を開催しました。

コロナの影響で中止が続いていましたが、今年は入居者の方々と活気に満ちた1日を過ごすことができました。

イベントの目玉は、ボランティアの「12wee舞」による迫力あるよ

さこいです。色鮮やかな衣装をまとった踊り手たちが、エネルギーッシュな舞を披露し、会場全体を盛り上げました。

また、祭りには欠かせない屋台も充実していました。たこ焼き、唐揚げ、フライドポテト、冷やしそうめん、アメリカンドッグといった多彩なメニューが並び、入居者の方々はできたての温かい食事を楽しまれました。

久しぶりのにぎやかな雰囲気、参加された方々の笑顔が溢れていました。

無事に納涼祭を終えられたことを感謝するとともに、来年も開催できることを願っています。



ボランティア「12wee舞」によるよさこい

「仲間と交流も！作品展で貴重な体験」

介護課

大阪で開催された第20回労災重度被災者作品展に当施設からも入居者の方々が作品を出品されました。

開催初日9月10日（水）には出展された方々と職員が一緒に会場を訪れ、全国各地から寄せられた絵画や工芸、書道など多彩な作品を鑑賞しました。どの作品にも作者の思いや個性があふれ、会場全体が創作の熱意に包まれていました。

自分たちの作品が展示されている様子を目にした入居者の方々は誇らしげで、来場者からの声掛けに笑顔を見せられる場面もありました。さらに、取材を受けインタビューに応



創作は元気の源！

じる機会もあり、少し照れくさそうにしながらも自分の思いを言葉にする姿が印象的でした。

他の出品者の独創的な作品にも刺激を受け、今後の創作意欲につながった様子でした。今回の作品展は、努力の成果を発表するとともに、仲間と交流する貴重な機会となりました。

ケアプラザ呉

「納涼お食事会」

介護課

ケアプラザ呉では8月6日（水）

の昼食時に「納涼お食事会」を開催しました。事前に開催ポスターが掲示されると、入居者の方々から楽しみにされている声が多く聞かれました。

当日は、食堂に夏らしい飾りつけをして音楽を流し、入居者の方々をお迎えしました。食事のメインはちらし寿司で、煮物やお吸い物、デザートもあり食べ応えがあるメニューで彩りもよく好評でした。

その他にもバイキング形式で、アメリカンドッグ、たこやき、たい焼き、アイスクリーム、ソフトドリンク、



豪華なお食事、彩り満点！

ノンアルコールドリンクも用意されました。

入居者の方々はご自身の好きなものを注文され、思う存分食べたり飲んだりしながら会話も弾み、たくさん笑顔も見られる中、会場は和やかな雰囲気になりました。

今後入居者の方々に楽しんでいただけるよう様々な工夫を凝らし、行事を盛り上げていきたいと思えます。

「自由に選んで12種類の多彩なデザート」

総務課

9月3日（水）、食堂にてお茶会を開催しました。自由参加という形でしたが、当日は31名の入居者の方々が参加されました。

お茶会では洋菓子、和菓子あわせて12種類のデザートをご用意しました。この中から自由に食べたい物を選び、コーヒーや紅茶とともにゆっくりと楽しんでいただきました。中でもシークリームは大変人気ですぐに用意した分がなくなりました。

今回は、普段居室から出る機会の少ない入居者の方々も参加され、BGMの流れる食堂でゆっくりとお菓子と飲み物を味わっていらっしました。

短い時間ではありましたが、参加された方々は楽しい午後のひとときを過ごされました。

今後も入居者の方々に楽しい時間を過ごしていただけるように職員一



ティータイムを楽しめる入居者の方々

同努力していきたいと思います。

ケアプラザ新居浜

7月16日(水)、四国中央医療福祉総合学院の臨地実習の一環として、看護学科の学生23人を対象に施設長及び介護課長が講師となり実地研修を行いました。受講した生徒から感想が寄せられましたのでご紹介します。

「ケアプラザ新居浜の臨地実習で学んだこと」

四国中央医療福祉総合学院

看護学科 横山 華

ケアプラザ新居浜で、施設長や介護課長から施設の概要について説明を受けました。利用者の年齢層や受傷時の疾患など対象となる方の説明、そして施設の理念として「健やかで安らかな生活の実現」を目指して支援していることを理解しました。

施設見学では、食堂において、自力での摂取が困難な方でもできる限り自分で食べられるように机の高さが利用者ごとに調整されていました。それによって利用者が自分の機能で食事を摂ることができ、自立支援がなされていると感じました。

浴室では、部分的な介助による入



熱心に研修に取り組まれた
四国中央医療福祉総合学院看護学科の学生さんたち

浴方法と機械入浴があり、浴室内の移動にはリフトを使用できるため、どのような方でも入浴ができることの説明を受けました。

居室内のトイレや浴室などの個別の部屋でも、ナースコールを引っ張るだけで職員が来てくれることを知り、安心して暮らせる生活の場であると感じました。それ以外にも目に見えないところには様々な工夫があり、入居されている方が健やかに生活できる工夫が感じられました。

私も今後、看護師を目指すに当たって、対象者の一人ひとりに寄り添い、その人の「健やかで安らかな生活」を支援できるよう、これからも努力していきたいと思っています。

「音楽ライブ開催！」

総務課長

10月8日(水) 音楽活動家の松尾貴臣さんをお招きして音楽ライブを開催しました。

長崎出身の松尾さんは現在千葉にお住まいで、今回は遠路はるばる愛媛にお越しいただきボランティアで出演いただきました。過去に、他のケアプラザでも同様のライブを複数回開催され、精力的に活動しているつしやるようです。

待ちかねた入居者の方々は昼下がりのひととき、誰もが知る名曲や松尾さんオリジナル曲の美しい歌声とギターの生演奏に聴き惚れ、あつという間の45分間のステージを楽しみました。

ライブ後には、筆者が幼少期に長崎で2年間過ごした共通点から長崎談議に花が咲き、松尾さんはその後、気さくに入居者の方々との写真撮影



音楽ライブのあと、松尾さんと
嬉しい記念撮影！

にも応じてくださいました。

今後、益々のご活躍をお祈りするとともに、またお越しいただき音楽ライブを開催していただけることを願っています！

ケアプラザ宇土

「買い物ツアー」ボランティア活動を通して

行事運営委員会

8月27日(水)、買い物ツアーを開催しました。中高生の皆さんにボランティア活動として、入居者の皆様の買い物をお手伝いいただき、その感想を寄稿いただきましたのでご紹介します。

「夏休み買い物ボランティアに参加して」

私がボランティア活動に参加したきっかけは、以前職場体験で障がい者福祉センターに行った時、利用者の方々とふれ合い、自分にできることがあると感じたことです。その時の体験で、人の役に立つことの喜びを知り、もっと誰かのために行動してみたいと思い、ボランティアに参加しました。

以前の職場体験では障がい者の方のサポートをしたことはあったのですが、今回は一緒にお買い物をする



お買い物をお手伝いする
学生の皆さん

というボランティア活動で、初めてだったのでとても緊張しました。でも障がい者の方や施設の方が優しく声をかけてくださったのおかげで緊張がほぐれました。

この体験を通して、人に優しくすることの大切さを学びました。困っている人を見かけたら、声をかけたり手伝ったりできるようにになりたいです。私も感謝の気持ちを伝え、この経験を大切にして、生活に生かしていきたいと思います。

「一週間の事業所実習を通して」

尚綱大学 短期大学部
食物栄養学科 田中・本田

私たちは、9月1日から9月5日までの5日間、ケアプラザ宇土での事業所実習でお世話になった尚綱大学短期大学部食物栄養学科の田中と本田です。実習初日は、とても緊張しており不安でしたが、施設の入居者様や職員の皆様がとても暖かく迎

えてくださり嬉しかったです。調理現場では、切り込みや盛り付けなど体験させていただき調理技術の高さやチームワークの大切さについて学ばせていただきました。栄養士としての業務の内容もたくさん学ばせていただき、とても充実した実習を送ることができました。

また、入居者様と好きな食事や趣味などの会話ができ、とても楽しかったです。実習期間中に私たちが作成した献立の食事提供を行った際は、入居者様から「最高に美味しかった」との感想をいただき、とても嬉しかったです。今回の学びや経験を生かしてこれからも精進していきます。ありがとうございました。



実習期間中に提供した献立のポスターを
手に持つ実習生(向かって左が田中さん、右が本田さん)

心をこめて一生懸命つくられたことが わかるような作品でした

第20回労災重度被災者作品展を開催しました

当財団では令和7年9月10日から12日までの3日間、大阪府大阪市にある「大阪府立男女共同参画青少年センター（ドーンセンター）」において「第20回労災重度被災者作品展」（リハビリからアートまで）を開催しました。

この作品展は、労働災害で重度の障害を負った方々が、多くの困難を克服し制作した

作品を展示する

もので、中央労働災害防止協会

が主催する全国

産業安全衛生大

会に合わせ開催

されています。

作品展には、

64名の方々が



100点の作品が展示されました。そのうちケアプラザの入居者34名の方々が46点の作品が寄せられました。

展示会場には、作品を展示されたご本人やそのご家族、全国産業安全衛生大会に参加された企業の安全衛生担当者などの方々が来場され、作品を熱心に鑑賞されていました。

★財団HP「労災重度被災者作品展」のページで、「第20回開催結果」をクリックしていただくと、作品等がご覧いただけます。

